

公益の風 #6

東北公益文科大学大学院運営委員

講師 ノヴァコフスキ・カロル



皆さんこんにちは。私の名前はノヴァコフスキ・カロルです。ポランド出身です。今年の4月に北海道の北見市から酒田へ引っ越しをして、東北公益文科大学で講師として勤めています。私の専門分野は「自然言語処理」、つまり我々人間が日常的に使っている言葉（プログラミング言語といった人工的に作られた言語と区別するために「自然言語」という用語が使われています）をコンピュータに分析・生成させる技術の研究です。皆さんはスマートフォンでの音声入力機能や、自動翻訳サービスを使うことがあると思いますが、どちらも自然言語処理技術の応用例です。私の主な研究テーマは

庄内弁とアイヌ語は「猫」でつながっている

少数民族の言語を対象とした自然言語処理であり、これまで特に力を注いできたのはアイヌ語の再活性化のための情報技術に関する研究です。アイヌ語は日本列島の現地語の中でもっとも独特な言語であり、日本語とは文法的にもまったく違い、同じ語族でもありません。しかし、こういった少数言語の他に日本各地で話されてきた日本語の方言というユニークな言葉も存在しています。東北地方、山形県、そしてこの庄内地方にも多くの方言があります。

庄内地方で使われている庄内弁に関しては、庄内地方は北前船を通じての京都との交流の歴史を持ち、結果として京ことばに由来していると思われる語彙が多いです。例として、理由を表すときに使われる「さげ」（京ことばでは「さかい」）や「てんこもり」（ご飯を山盛りに盛ること）が挙げられています。いっぽうでは、庄内弁の（鼻で発音をするような）音やメロディーはフランス語に似ているという声も耳にしました。

庄内地方をもっと知ろうと酒田周辺をドライブしていたある日、松山資

料館で開催されていた「北海道と庄内展」を見学し、実はこんな庄内弁にもアイヌ語と共通している単語があることがわかりました。例えば、共通語で「猫」と言いますが、庄内弁でも、アイヌ語でも、「猫」のことを「チャペ」と呼びます。

さらに、東北地方の地名には、アイヌ語から由来しているのではないかと解釈されている地名が存在しています。例えば、岩手県花巻市にある似内（にたない）という地名はアイヌ語の「ニタツ」（谷地）と「ナイ」（川）が語源であるという説があります。

また、東北地方の山奥での狩猟を専業とする山マタギの独特な言葉にも、アイヌ語の影響が強いです。たとえば、狩の

友である犬のことを「セタ」と呼び、山で生活する上で貴重である水のことを「ワッカ」と言うらしいですが、どちらもアイヌ語と同じです。

酒田で仕事をするようになったとき、先輩や指導教員、多くの人が驚き、「でも、これはあなたのアイヌ語研究とは関係ないでしょう」とよく言われました。しかし今では、東北地方とアイヌ民族の歴史や言葉は驚くほど様々なところにつながっているということが少しずつわかってきました。これからも、庄内地方や東北地方とアイヌ民族の知られざるつながりをさらに発見し、言語の研究と歴史学は相互に関連している分野であることを証明したいと思っています。



石狩市の浜益。南下をうかがうロシアに備えるために幕府から北方警備を命じられた庄内藩が、現在の石狩市浜益区川下に本陣を建設した。藩士や移住農民や職人合わせて約500名が入植した史実を雄弁に伝える石碑が、川下八幡神社にある。碑面に彫られた文字は、「鳥海山 湯殿山 羽黒山」。